

大丹波 奥茶屋ボルダー

2017.11.5 rctK

実家から帰京後、2週連続の台風の影響で暫く外岩に行けなかったが、先日時間が取れたので、久しぶりに大丹波に行ってきた。何処も雨の影響で状態が悪いことが予想されたので、トライしたことがなく、アクセスもアプローチも近いボルダーということで、下部のエリアよりもさらに下流、棒ノ折登山口(奥茶屋の休憩所があるが現在は休業状態)の少し上流の左岸にあるボルダーに行ってみた。

実は以前見に行ってみたのだが、岩全体が掃除され、チョーク跡も見られ、誰かがトライしているらしかったので、触らずに他のボルダーに移動したことがある。帰宅後、ネットで大丹波付近のボルダーを検索してみたが、件のボルダーはかからず、取り敢えずそのうちに

YouTube かブログにアップされるのではないかと考えていた。しかし、

YouTube のボルダリング動画アップが花盛りとはいえ、その後は特に気かけずにいたこともあって情報が入らず、結局現在も、誰がトライしていて、開拓が終わったのかどうかも分からず終いである。

今回訪れてみたところ、苔や草が付き始め、最近は全くトライされたような形跡はなく、自然に戻りつつあったので、ライン取りもグレードも分からないが、再度掃除をしてトライさせてもらった。

対象のボルダーは4つほどあり、林道から見えるが、川岸とはいえ、高木の植林帯の中にあり、あまり明るいとは言えない。多分夏は結露が酷いのではと予想される。なお、登山口の橋より下流に1つきれいなボルダー(D)が見えるが、確認すると全体がきれいになっており、登られている雰囲気があった。対岸の奥茶屋キャンプ場から見える位置にあり、登って良いか確認しなかったため、今回トライはしていない。

アクセスは、奥茶屋キャンプ場の先に棒ノ折登山口があり、ボルダーはその橋の上流側左岸にあるので、車の場合は、大丹波ボルダー下部エリア手前のスペースを利用するが、奥茶屋、百軒茶屋、中茶屋の有料駐車場も利用できる。なお、登山口のスペースは駐車禁止である。

アプローチは、川の水量が少なければ林道側から飛び石伝いに渡れるが、増水時は登山道の橋を渡ってすぐ左のワサビ畑のネット沿いに岩の上に行く。そこはあまり快適なアプローチとは言えないが仕方がない。

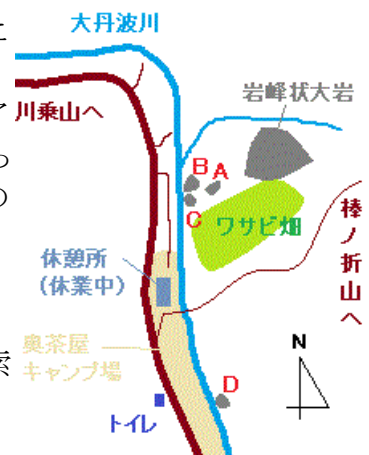
《課題紹介》

●A 岩

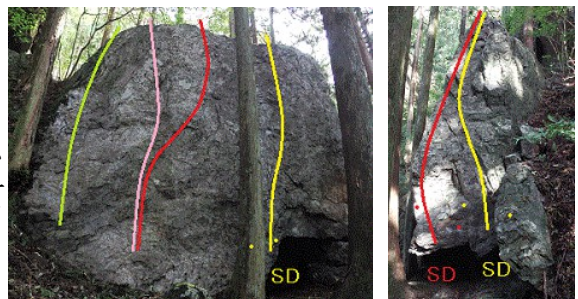
この岩は4m強の高さの岩で、全面苔で覆われており、大きな浮石もあってトライされた形跡がなかった。正面のスラブ面の浮石と苔を落としてみると、高さもあり、そこそこ遊べるボルダーとなった。側壁は下部がハングとなっているが、ハング周辺には苔があまり付いていなかったため、トライされた可能性がある。

課題は6本程で、正面スラブの赤と黄色ラインが最後まで緊張感がありお薦め。赤ラインはピンクラインの上部フレークとその右下のガバは、手足とも使用しないという限定あり。

側壁のSD課題は、2本とも出だしの数手が勝負。上部は高さはあるが落ち着いて登れば問題なし。



左: 正面スラブ 右: 側壁

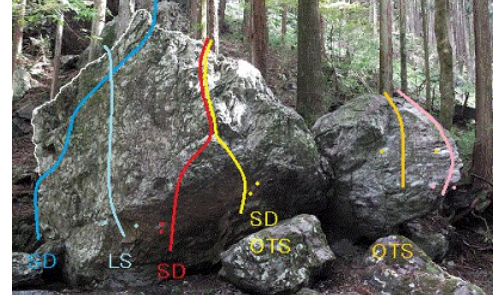
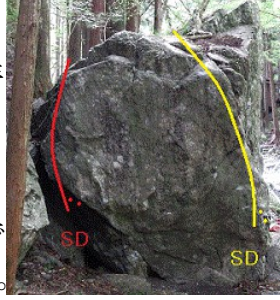


●B岩

左: B岩上流側

右: B岩川側とC岩の上流側

この岩は、以前来た時にトライされた跡があった川側にハングを持つ3m程のボルダーである。以前チョーク跡があったと思われたハングのガバが、登ろうと手を掛けた瞬間に手前に崩れかけたため、固める状態には程遠いので思い切って浮いている部分を落とした。



課題は、上流側の両サイドに2本、

川側に4本あり、以前トライした者が登ったと思われるラインを想像してライン取りをしてみたが、さらに難しいラインが設定されているかもしれない。

川側の黄色ラインは浮石を落とした後にトライするが、上部でカチを取りリップに足を上げたところ、カチホールドが10cm四方に剥がれ背中からフォールしてしまう。薄いマットのみだったが怪我はなく幸いであった。トライされたラインなので半ば安心して取り付いてしまったが、今までに何度かこのようなことはあり、こういうこともあるということを再度肝に銘じたい。

赤ラインはSDでスタートしリップ付近のホールドを使い黄色ラインのガバに合流する。

●C岩

写真: 下流側

この岩は、上部に苔が付き、泥や小灌木が載っていたので掃除された形跡はないが、下流側はトライされたかもしれない。下がハングしており、面白そうな感じの岩だが、下流側は段状の岩があり、落ちた時には注意を要する。

課題は5本ほどあるが、ピンクライン(ハング上でマントリング)と赤ライン(リップに出たら右にトラヴァース)がお薦め。

